

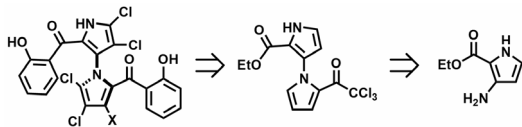
# 28P-pm384

Marinopyrrole 類の合成研究

○忍足 鉄太<sup>1</sup>, 奥山 祐司<sup>1</sup>, 高橋 秀依<sup>1</sup>, 夏莉 英昭<sup>1</sup>(<sup>1</sup>帝京大薬)

【背景・目的】2008年、Fenicalらは新種の海洋産放線菌の培養液から顕著な抗MRSA活性を有する Marinopyrrole A 及び B を単離・構造決定した。原報<sup>1)</sup>では二つのピロール環を繋ぐ C-N 結合を不斉軸とするアトロプ異性が存在し、天然型は *M*(-)-体であることが示されている。我々は、このような 1,3'-ビピロール骨格に興味を持ち、効率的な合成法の開発と立体化学の解明を主眼に本研究に着手した。

【方法・結果】既知の 3-アミノ-2-カルボエトキシピロールから Paal-Knorr 法によって 1,3'-ビピロールを合成し、ピロール環の 2 位にトリクロロアセチル基を導入した。現在、ハロゲンの導入及び、あらかじめサリチロイル基を導入した 1,4-ジケトンを用いた Paal-Knorr 法について検討している。



(-)-Marinopyrrole A (X=H)

(-)-Marinopyrrole B (X=Br)

【文献】1) Fenical *et al. Org. Lett.* **2008**, *10*, 629-631.